

## ■効果の見える治水事業

のたばらだに

### 徳島県 野田原谷 通常砂防事業

徳島県東部県土整備局<吉野川庁舎>

かしょ たつや

副局長 柏尾 達也



#### ○概要

阿波市市場町字野田原に位置する野田原谷は、日開谷川を経て一級河川吉野川へ流下する土石流危険渓流Ⅰです。当渓流の被害想定区域内には人家15戸のほか、避難所に指定されている市場日開谷体育館への避難路である、県道仁賀木山瀬停車場線や市道西原日開谷線等があります。

当流域の荒廃は著しく、出水時には渓床堆積物の流下や突発的な山腹崩壊に伴う土石流等により、下流域の人家等に甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、早急な対策工の実施が必要となっておりました。

このため、平成21年度より通常砂防事業による砂防堰堤の整備に着手、平成25年度末に完成したことにより、土石流災害に対する流域の安全度の向上が図られました。

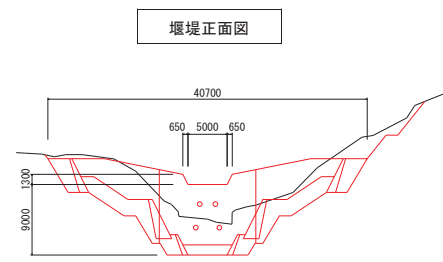
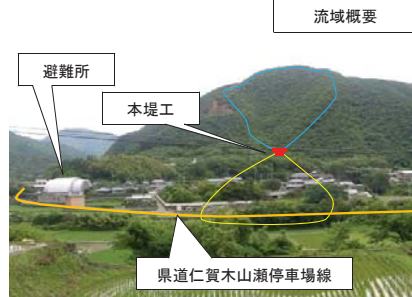
本県の中山間地域には土石流発生の危険性が高い渓流が多いことから、引き続き要配慮者利用施設や避難路、避難所を保全する箇所の整備に重点的に取り組み、「安全安心・実感とくしま」の実現を目指したいと考えております。

#### ○事業内容

管理型砂防堰堤：本堰工 1基 (H=9.0m L=40.7m)

#### ○事業期間

平成21年度～平成25年度



## 「安全・安心のまちづくり」を目指して

徳島県阿波市長 野崎 くにみつ



阿波市は讃岐山脈を背に吉野川を望み、水と緑の豊かな自然に恵まれ、温暖な気候と、肥沃な土地を活かした高品質な農畜産物を供給する県下有数の農業地域です。また、国の天然記念物であり世界三大土柱の一つとされる「阿波の土柱」は、自然の雄大さを満喫できる絶景であり、「阿波土柱の湯」をはじめとした多くの観光施設も人々を癒してくれます。

阿波市の中北部に位置する市場町日開谷地区には、日開谷川へ流下する野田原谷をはじめとしたいくつかの河川があり、土砂災害警戒区域等に指定された箇所も多くあります。その野田原谷は土石流危険渓流Ⅰに指定されていますが、このたび徳島県の通常砂防事業による管理型砂防堰堤整備が完成したことにより、周辺住民の方の安全性の向上や、避難所への避難路の確保などに高い効果が期待されます。

阿波市は「安全・安心のまちづくり」を目指しており、その一例に阿波町西林地区の内水被害対策として都市再生整備計画事業を活用した「西林ポンプ場整備」を進めております。また一級河川である吉野川で堤防が未整備であった阿波市阿波町勝命箇所において、平成24年度から国土交通省直轄事業による築堤工事が進められ、更なる防災・減災対策が進んでいます。

そして、近い将来に発生が予想されている南海トラフ巨大地震に代表される自然災害が起きた場合には、災害に対応する機能が求められます。その際、災害対策の拠点として市役所庁舎が大きな役割を担いますが、平成27年1月に供用を開始した阿波市役所新庁舎および交流防災拠点施設アエルワは、免震構造を採用するとともに、中型ヘリコプターが離発着できるヘリポートや近接地に耐震性貯水タンクを設けるなど、災害発生時に迅速な対応ができる庁舎となっており、災害ボランティアの活動拠点としても活用されます。また併設する阿波市学校給食センターでは市内全ての幼稚園・小学校・中学校へと給食を届けますが、毎時6,000食のおにぎりを製造できる設備を有しており、災害発生時には食糧供給施設として活用され、阿波市内外の被災地へ対応が可能です。さらに、津波災害発生時には沿岸地域等に対する「後方支援拠点」として大きく貢献できます。

今後も引き続き、防災・減災対策の実施や、災害時に応急的な活動が期待できる自主防災組織の設立支援など、安全・安心のまちづくりに積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

#### ○阿波市新庁舎および交流防災拠点施設アエルワ (平成26年12月完成、平成27年1月供用開始)



誰もが利用しやすいユニバーサルデザインとし、自然採光、自然通風、太陽光発電、雨水利用など自然エネルギーを活用した、市民にも環境にもやさしく、また免震構造や自家発電設備等により災害に強い庁舎となっています。